

## 虚弱子馬に対する胸部圧迫法について

門別診療所 三浦耀平

2023年4月に入社致しました、三浦耀平と申します。よろしくお願ひ致します。今回はお産のシーズンも近くなってきていることから、出生直後まれに見られる虚弱子馬に対する胸部圧迫処置についてお話させていただきます。

生まれたばかりの新生児が、起立不能、乳を飲もうとしない、外部からの刺激に反応しないなどの異常行動、症状が見られた場合、これらの症状を総称して、新生児不適応症候群と呼んだりします。その体の中で何が起きているのか定かではありませんが、脳の低酸素状態や虚血状態、以下に話すホルモン動態が原因として推察されています。

母親の子宮内にいる胎児は睡眠状態を保つために、ある種のホルモンを分泌しています。本来は、出生時の産道の胸部圧迫が引き金となり、このホルモン分泌が低下し、睡眠が解除されます。しかし、娩出時この胸郭圧迫による刺激が少ないと、ホルモン分泌が継続してしまい、体内でのスイッチの切り替えが起これず睡眠状態のままになってしまうという発症メカニズムが提唱されています。

このホルモン分泌異常に対して、新生子馬

の胸部をロープで圧迫し、産道の通過を再現するという処置方法（ロープスクイズ法）があります。結び方はまず、ロープ先端に輪を作り、これにロープを通すことで、首の回りを一周させます（たすき掛けでもよい）。続くロープは帯道に沿って腋下を通し背中までロープ同士を交差させます。これを2～3回繰り返して尾側へロープを少しずつずらし、最後ロープを引きます。胸部圧迫により、子馬は再び眠ったような状態になります。20分間の圧迫後にロープを外します。やり方に関しまして、動画のQRコードを貼らせて頂いたので、ご参照ください。簡便な処置方法であり、場合によっては時間の間隔を空けて、くり返しの圧迫を牧場の方に依頼することもあるかもしれません。ただし、本法の効果については、助からない子馬が助かるようになるというよりも、あくまで助かる子馬の回復までの時間短縮が主となるようです。実施する場合は、子馬の全身状態を確認する必要もあり、本処置以外にも色々な治療を併用する為、まずは獣医師とご相談の上行うことをおすすすめします。



ロープスクイズ法の動画 (YouTube)



写真「JRA育成牧場管理指針－生産編－」より